

# 令和5年度 福島区社会福祉協議会 事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和2年から国内で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、地域活動や感染の不安から外出を制限し社会的に孤立する人や収入減少により経済的に困窮する人等、住民の暮らしにさまざまな影響を及ぼしました。同感染症は令和5年5月に5類に移行し、これまで中止や休止になっていた事業や地域活動は再開してきている一方で社会経済状況の悪化や地域とのつながりの希薄化など社会的孤立や生きづらさを抱える人が増えています。

そうした状況下、福島区社会福祉協議会においても、つながり・支え合いができる福祉コミュニティを構築すべく、新型コロナウイルス感染防止に取り組みながら、住民同士が集まり顔の見える関係づくりができるよう交流機会の提供・支援やリモート(オンライン)を活用しながら事業を行ってまいりました。

福島区では、大型高層マンション等の建設による転入者等により、人口は年々増加しており、子育てや介護の問題、児童・高齢者・障がい者等の虐待問題、子どもの貧困や生活困窮をめぐる生活問題、特殊詐欺被害を含む消費者問題等、近隣や地域との関係の希薄化も含め、地域における福祉課題が増加し、多様化・重複化しておりますが、このような福祉課題の解決に向けて、アウトリーチを強化し、地域福祉活動支援、要援護者の見守りネットワーク強化学業、地域包括支援センター事業等が連携し支援してまいりました。さらに休業や失業で経済的に困窮した世帯に対して生活福祉資金窓口による緊急小口資金及び総合支援の貸付や生活困窮自立相談支援窓口による住居確保給付金等への対応やフードパントリーの実施など取り組んでまいりました。

また令和5年度は、福島区社会福祉協議会 社会福祉法人設立30周年を迎え、11月29日に福島区社会福祉記念大会を開催しました。

## 1. 会 議

- 令和5年5月23日 監事による会計監査
- 6月 2日 理事会
- 6月 2日 善意銀行運営委員会
- 6月23日 評議員会
- 6月23日 理事会
- 6月23日 地区・校下社協会長会
- 6月23日 地域ネットワーク委員長会
- 7月 3日 ボランティア・市民活動センター運営委員会
- 10月23日 福祉基金（植本・小林・手嶋基金）運営委員会
- 12月22日 理事会
- 12月22日 地区・校下社協会長会
- 12月22日 地域ネットワーク委員長会
- 令和6年3月12日 ボランティア・市民活動センター運営委員会
- 3月18日 理事会
- 3月18日 地区・校下社協会長会
- 3月18日 地域ネットワーク委員長会
- 3月22日 評議員会

## 2. 事業概要

### (1) 会員の募集

- ①基本会員（役員・組織構成会員）：92人
- ②賛助会員 個人：213人 / 団体：16団体

### (2) 地域福祉活動推進支援

- ①地区・校下社協活動等への支援

地域の高齢者や障がい者、児童など誰もが地域で安心して生活で

きるよう地域住民の参加と協力による支えあい、助けあい活動を小地域で実施する事業推進のための支援を行った。

- ア 地区・校下社協会長会の開催（全3回）
- イ 地域ネットワーク委員長会の開催（全3回）
- ウ 子育てサロン連絡会の実施（1回）
- エ コミュニティサロン連絡会全体会議の参画（全4回）  
こどもの居場所活動部門会議の開催（全3回）
- オ 地域福祉コーディネーター連絡会の参画（全12回）
- カ キャラバン・メイト連絡会の開催（全6回）
- キ 認知症サポーター養成講座の開催（全9回）
- ク 地域福祉活動カレンダーの作製4,000部
- ケ 地域子育て応援マップの作製5,500部
- コ 子育て情報紙「フッピーキッズ」49、50、51号の発行支援

②地域福祉推進への参画・推進

こどもの居場所づくり活動支援（50回）

③地域支援システムの推進・参画

- ア 高齢者支援会議の開催（4回）
- イ 高齢者虐待防止連絡会議の参画（1回）
- ウ 地域自立支援協議会の参画（4回）
- エ 子育て支援連絡会の参画（2回）
- オ 福島地域情報交換会（事前打合せ、振り返り含む）（3回）

**(3) 福島区社会福祉施設連絡会の運営**

①連絡会の開催（全3回）

②福祉イベント

あいあいまつり（2月10日）

③社会福祉施設連絡会職員向け研修会

ア 「ヤングケアラーを知る」(1月30日)

イ 一水会・区社会福祉施設連絡会合同学習会(2月14日)

④地域貢献

子育てサロンへの保育士派遣(9回)

(4) 広報・啓発活動の推進

①機関紙「福島区社協あいあいだより」の発行(タブロイド版4面)

4月に第89号、8月に第90号、12月に91号を各23,000部発行した。

②子育て情報誌の発信

ア 子育て情報紙『フッピィキッズ』の発行支援(年3回)

イ 地域子育て応援マップの作成・発行(5,500部)

③インターネットや回覧等による情報提供

ア 区社協ホームページで区社協事業や福祉・ボランティア活動に関する情報提供

イ 区社協フェイスブックによる情報発信

ウ 区社協公式LINEによる情報発信

エ 各種講座等のチラシ・ポスターの掲示、回覧

④その他

区社協パンフレットを福島区への転入者に配布

(5) ふれあいイベントの開催

区内の社会福祉施設・ボランティア・地域活動協議会などによる日頃の活動紹介・交流や福祉について啓発を行う目的で、第21回あいあいまつりを開催(2月10日(土)参加者約900名)

(6) 福島区ボランティア・市民活動センターの運営

①情報の収集・発信(啓発・広報)

福島区社協だより、広報ふくしま、福島区社協公式LINE、Facebook等にボランティア講座受講生募集・イベントの周知・ボランティア活動者募集・助成金周知等の記事の掲載を行った。また、ボランティアに関する情報発信のため、「ボランティア・市民活動センター登録団体一覧」を更新した。

## ②事業企画

ア 障がいのある人とその家族などを対象に「障がい児・者スポーツ・レクリエーションひろば」を開催。（4月22日（土）参加者39名）

イ NPOや企業の社会貢献活動支援のため、「NPO・企業交流会 in FUKUSHIMA」を開催。（3月11日（月）参加：14団体15名）

## ③ネットワークの構築

ア ボランティア・市民活動団体連絡会（全2回）

イ みんなのサロン“あいあい”の開催（全11回）

福島区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアによるパフォーマンス（演奏や踊り・体操など）の披露

参加者：延べ210人

ウ 福島区コミュニティサロン連絡会の参画（全7回）

内訳：全体会議（4回）、こどもの居場所活動部門（3回）

## ④活動への支援

ア 福島区内で活動している福祉に関するボランティアグループ・団体に対して、助成金を交付し活動を支援

a 福島区ボランティアグループ助成金：5団体200,000円交付

b 福祉ボランティア活動応援資金：8団体270,000円交付

c 福祉基金：植本・手嶋基金2団体56,000円、小林基金4団体200,000円交付

イ ボランティアグループへ場所・備品（印刷機、紙折り機、拡大機）等の提供

a 会議・練習等活動のための部屋の利用（16団体利用）

b 活動に必要な資料等作成のため印刷機等の使用（21団体利用）

⑤福祉教育・研修の推進

開催日	対 象	内容、共催・協力団体等
5月18日(木)	海老江東小学校 1年生 64名	発達障がいについて 講師：チャオネット
7月1日(土)	リバーガーデン福島 木漏れ日の丘 15名	車いす体験会
7月10日(月)	海老江西幼稚園 18名	人権について 講師：ま～るま～る
9月28日(木)	福島小学校 5年生 63名	聴覚障がいについて (当事者講話・手話体験) 講師：手話サークルふじ
11月18日(土)	玉川小学校 1～6年生 440名	防災教育(車いす・高齢者疑似体験) 協力：防災リーダー
11月21日(火)	福島小学校 3年生 68名	視覚障がいについて (当事者講話・アイマスク体験) 講師：就労支援事業所 カラフル大阪
11月22日(水)	福島地区活動協議会 地域ネットワーク委 員会研修会	障がいについて・車いすや介助方法につ いて
12月4日(月)	野田中学校 1年生 117名	防災教育 車いす・アイマスク・高齢者疑似体験 協力：個人ボランティア・防災リーダー・ 歌体操ボランティアグループふじの花
12月19日(火)	福島小学校 6年生 88名	身体障がいについて (当事者講話・車いす体験) 講師：個人ボランティア
1月16日(火)	福島小学校 2年生 43名	発達障がいについて 講師：チャオネット
1月19日(金)	八阪中学校 1年生 164名	障がいについて (DVD視聴・車いす・アイマスク体験) 協力：個人ボランティア・歌体操グルー プふじの花
1月21日(日)	大開小学校 3年生 64名 4年生 49名	防災教育 (東日本大震災を題材にした語りの防 災教育・防災すごろく) 講師：個人ボランティア
1月23日(火)	野田小学校	防災教育

	3年生 75名 4年生 84名	(高齢者疑似体験・防災ゲーム)
2月13日(火)	海老江東小学校 3年生 60名	障がいについて (当事者講話・車いす・ボッチャ体験) 講師：個人ボランティア
2月14日(水)	上福島小学校 4年生 54名 6年生 36名	防災教育 (高齢者疑似体験・防災ゲーム)

⑥ ボランティア活動支援 (250件)

活動登録・ 需給調整	相談・問合せ 対応	グループ等へ の支援	ボランティア の養成	福祉教育 の推進
80件	70件	61件	11件	28件

⑦ ボランティア活動の紹介 (令和6年3月末)

ア 個人・団体登録状況

個人登録者：88人 (新規登録者：9人)

団体登録数：43団体 (新規登録団体：5団体)

イ ボランティア活動件数：821件 (前年度：603件)

ウ ボランティア活動延人数：6,480人 (前年度：5,816人)

⑧ ボランティアの養成・育成

養成講座名	実施日	参加者
ボランティア体験会	10月27日(金)	18人
災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座	①11月18日(土) ②11月25日(土) ③12月2日(土)	延べ 14人
精神保健福祉ボランティア養成講座 ※④はこども食堂の見学予定だったが、インフルエンザ流行のため中止	①1月26日(金) ②1月27日(土) ③2月2日(金) ④2月8日(木)中止	延べ 18人

⑨ ボランティア総合保障制度 (ボランティア保険) 受付業務

個人ボランティアおよび諸団体・グループのボランティア活動を対象に

ボランティア活動中の予測しえない事故を補償する『ボランティア活動保険』および、行事中の事故に対応する『ボランティア・市民活動行事保険』等への加入を促し、その受付業務を行った。

ボランティア活動保険	Aプラン	37件	280人
	Bプラン	4件	77人
	Cプラン	12件	223人
ボランティア・市民活動行事保険	I型A区分	240件	12,354人
	I型B区分	1件	800人
	I型C区分	3件	375人
	II型	1件	43人
	III型	12件	120人
非営利・有償活動団体保険		4件	25人
移送中事故傷害保険		受け付けなし	

⑩ 災害ボランティアセンターに関する業務

ア 区社協職員災害研修(全3回)

a 防災の基礎知識、初動行動、BCPについて(2回)

b 災害ボランティアセンター立ち上げ、運営訓練(実践)(1回)

※災害ボランティアセンタースタッフ養成講座と合同で実施。

イ 防災専門家と定例でワーキング・勉強会を開催(10回)

ウ 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座(全3回)

エ MCA無線通信訓練(11回):毎月第4火曜日実施

オ 海老江東地域防災訓練:10月15日(日)

カ 玉川小学校防災教育:11月18日(土)

キ 野田中学校防災教育:12月4日(月)

ク 大開小学校防災教育:1月21日(日)

ケ 野田小学校防災教育:1月23日(火)

コ 上福島小学校防災教育:2月14日(水)



サ 上福島地域避難所開設訓練：2月18日（日）

シ 災害用品の購入（備品及び備蓄用品）

### （7）障がい者福祉に関する事業

- ①点字本・点訳絵本の作成と貸出・寄贈
- ②福島区広報ふくしまの朗読テープ作成と貸し出し

### （8）地域福祉に関する事業

#### ①車いす貸出事業

区内在住・在勤の方対象に、車いすの貸し出し（2週間）を実施

貸出し件数：121件（保有台数28台）

#### ②スロープ貸出事業

区内在住・在勤の方を対象に、貸し出し（短期間：2週間程度）を実施。

貸出し件数：0件（保有台数6台）

#### ③福祉用具貸出事業の実施

高齢者疑似体験セット・アイマスク・車いす・車いす用スロープ

貸出し件数：0件

### （9）高齢者福祉に関する事業

高齢者敬重訪問…令和5年度中に満100歳を迎える高齢者（対象者18人）に記念品を贈呈。5年度は一番早い誕生月の方へ区社協会長、区長、地区・校下社協会長と訪問し、他の方は対象者宅へ送付した。

### （10）善意銀行の運営

- ①ボランティアグループ・団体等への払出し 8件
- ②歳末助け合い運動に対する払出し 4件
- ③各種行事等に対する払出し 10件

④寄付でいただいた物品について、子ども食堂、こどもの居場所、コミュニティサロン等へお届けし、活動支援やSDGsの取組みを実施。

月 日	寄 贈 者	品 名	数 量
4月 4日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
4月 7日	日本もったいない食品センター	食料品セット	30箱
5月 2日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
5月26日	五大物産株式会社	食料品等	約50箱
6月 1日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
6月 9日	日本流通産業株式会社 （くらしモア）	食料品（ミネラル チャージゼリー）	約100箱
6月30日	個人	精米	3キロ
7月22日	個人	精米	10キロ
7月24日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
7月26日	Pure Hugs	パソコン	1台
7月31日	個人	食料品セット	1箱
8月 8日	ワールドコマース株式会社	精肉	150パック
8月 8日	個人	衛生用品	5袋
8月28日	個人	衛生用品	8袋
8月29日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
8月29日	個人	衛生用品	3袋
9月22日	日本流通産業株式会社 （くらしモア）	食品缶詰	約65箱
9月27日	個人	精米	30キロ
10月 3日	個人	肌着	10着
10月30日	日本もったいない 食品センター	精米、カット野菜	約100袋 約100パッ ク
11月14日	ブルドッグソース	ウスターソース・ とんかつソース	10箱
11月16日	セブンイレブン	食料品、生活物 品、衛生物品等	約10箱
11月18日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードド ライブ）	
12月 5日	大阪西北ロータリークラブ	クリスマスブー ツ320個 フードパントリー	

		一用食品60名分	
12月 9日	個人	精米	15キロ
12月22日	大阪信用金庫 上福島支店	食料品（フードドライブ）	
1月31日	ホテル阪神大阪	絵本	32冊
3月 8日	個人	遊具	ジャングルジム
3月21日	個人	衛生用品、介護食	3袋 20箱
3月28日	日本流通産業株式会社 （くらしモア）	食品缶詰	14箱
毎月	西北環境事業センター（区役所）	フードドライブ	

※令和5年度善意銀行寄贈物品一覧

### （11）地域における要援護者の見守り支援ネットワーク強化事業

平成27年4月より「見守り相談室」をあいあいセンターに設置。地域と行政が要援護者の情報を共有することで、孤立死の予防や災害時の避難支援、また認知症高齢者等の行方不明時の早期発見を図る。

#### 機能①地域の見守り活動への支援

同意書を対象者に郵送または見守り支援ネットワーカーの訪問により同意確認を行った。また、要援護者名簿の整備・管理を行い、地域での見守り活動が円滑に行えるよう、地域の見守り活動者に対し支援を行った。

- 対象：①65歳以上高齢者で要介護3以上の方または要介護2以下で日常生活自立度Ⅱ以上の方、区要援護者名簿登録者  
 ②身体障がい1・2級、視覚・聴覚障がい3・4級、音声・言語機能障がい3級、肢体不自由3級、知的障がいA、精神障がい1級  
 ③難病患者（医療機器などへの依存度の高い人）

ア 同意確認書の郵送（再発送含む）

第1回目	8月31日	384人＋再発送214人
第2回目	3月8日	355人＋再発送215人

合 計	7 3 9 人 + 再発送 4 2 9 人 計 1, 1 6 8 人
-----	---------------------------------------

イ 返信 4 1 6 人（返信率：5 6 . 3 %）

同意：3 1 2 人 不同意：1 0 4 人

ウ 訪問 5 8 件（回答率：4 4 . 8 %）

同意：2 2 人 不同意：4 人

エ 地域へ要援護者名簿の提供（令和 5 年 1 1 月 1 日発行）

提供先：各地域の地域振興会、地区・校下社会福祉協議会、  
民生委員児童委員協議会、地域女性団体協議会

## 機能②孤立世帯への専門的対応

ア 相談実人員：2 2 6 人

男性：9 3 人 女性：1 3 1 人 不明：2 人

イ ひきこもり親の会「しまりす会」開催

奇数月第 2 土曜日（全 6 回） 参加者数延べ 1 7 人

ウ 「ふくくるカフェ」の開催

・ひきこもり当事者の会「フリースペース シマリス」の活動を見直し、コミュニケーションに苦手意識のある人や誰かに話を聞いてほしい人など、誰でも参加できる居場所としてリニューアル。生活あんしん相談窓口と共催でボランティアの協力を得ながら開催。

・奇数月の第 2 土曜日に実施（全 6 回実施）

参加者 延べ 2 8 人

エ ヤングケアラーオンラインサロン「なごみ」の開催

・ヤングケアラー当事者が、家族のことや進路のことなどを相談できる場として、オンラインでのサロンを実施していたが、問い合わせや参加者は無し。

・オンラインサロンは令和 5 年度で終了とし、相談があった場合などに居場所やピアサポートへのつながりを行えるようアドバイザーと協議。また、ヤングケアラーについて知る人を増やし、相談へとつながるよう啓発活動を実施。今年度は社会福祉施設連絡会と協力し、職員向け研修を実施。

### 機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見

- ア 発見協力者：186件（民生委員・地域活動者・各種団体など）
- イ 事前登録者：71人（男性：26人 女性：45人）
- ウ 行方不明配信依頼：1件（大阪市内配信）
  - 発見件数：2件（内1件は令和4年度にメール配信実施）
  - 発見場所：区内1件、市外（府下）1件
- エ 徘徊認知症高齢者位置情報探索事業（GPS利用）：4件
- オ 警察からの支援対象事案情報提供  
61件（実人数 男性：19人、女性：42人）

### その他

- ア 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業の実施  
65歳以上のひとり暮らしの方を対象に、事前に家の鍵を預かり、緊急と判断された時には鍵を使って家の中に入り安否を確認する事業をモデル地域（海老江西地域）にて実施。
- イ 各種会議への参加  
自立支援協議会、高齢者支援会議、支援調整会議、地域福祉コーディネーター連絡会、居宅介護支援事業者連絡会へ参加し見守り相談室の業務及び要援護者名簿を活用した見守り活動への協力依頼や周知、広報等を行った。
- ウ 各種研修会等への参加、開催
  - ・新家地域見守り活動者研修会への参加や、地域で行われている見守り活動に参加。
  - ・地域福祉活動講演会 ころの病と向き合うときに大切なこと～お互いが「知り添う」地域に～を開催。

### （12）生活困窮者自立支援事業

平成27年4月1日から大阪市より受託し、福島区役所3階に「生活あんしん相談窓口（生活自立支援相談窓口）」を開設。引き続き令和4年4月1日から令和7年3月31日まで3年間受託し事業の実施を行う。

#### ①相談実績

ア	新規相談受付件数（本人未特定を含む）	4 1 7 件
イ	プラン策定前支援終了件数（初回スクリーニング時）	2 1 1 件
	a 情報提供のみで終了	1 7 6 件
	b 他機関へのつなぎで終了	3 5 件
	c スクリーニング判断前に中断・終了	0 件
ウ	支援決定・確認件数（再プランを含む）	6 0 件
エ	就労支援対象者数（プラン期間中の一般就労を目標）	2 8 件

#### ②支援調整会議

ア	支援決定・確認件数（再プランを含む）	6 0 件
イ	評価実施件数（再プラン含む）	5 7 件
	a 終結	3 2 件
	b 再プランして継続	2 5 件
	c 中断	0 件

#### ③事業実施・協力

- ア 福島区社会福祉協議会イベント「あいあいまつり」で出張相談会を開催。
- イ 福島区役所保健福祉課主催の支援会議出席し、各窓口担当と事例検討やロールプレイを実施し連携の強化に努めた。  
（計4回実施）
- ウ 企業やロータリークラブ等から食料等の提供を受け、食料支援を実施。また食料を必要とする方を対象に12月にフードパントリーを開催。

#### ④周知・広報

- ア 事業周知チラシ1,000枚を追加作成（周知広報・事業説明）
- イ 福島区社会福祉協議会ホームページへ事業内容を掲載
- ウ 福島区社会福祉協議会広報紙「あいあいだより」や「暮らしのお役立ち情報ガイド」へ事業内容を掲載
- エ 地域福祉コーディネーター連絡会で事業チラシを配付
- オ 区役所内全ての窓口へカード型チラシを設置
- カ 地域への周知広報・事業説明

- a 各地区の民生委員児童委員協議会会議で事業周知
- b 地域福祉コーディネーター連絡会に参加
- c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体会議）に参加し事業説明
- d 各地域の町会長会議で全町会長へ事業周知
- e 居宅介護支援事業者連絡会で研修として事業周知

### （13）生活支援体制整備事業

平成29年11月より生活支援コーディネーターを配置し、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を安心して営むことができるよう、多様なニーズや社会資源の実態を把握して、必要なサービスや社会資源を創出するよう努めた。

#### ① ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

ア 生活支援コーディネーター通信Vo.1を発行。生活支援体制整備事業や関わっている取り組みについての紹介とともに福島いきいきウォーク参加者と作成したマップを掲載した。作成・配布を通して、活動状況の聞き取りや、高齢者の状況等を把握した。昨年度に引き続き、地域包括支援担当や見守り相談室、地域支援担当等で地域アセスメント会議・振り返りを開催し社協職員の視点から小地域ごとの地域特性や課題等の分析・情報の蓄積をおこなった。福島地域で情報交換会を開催し、地域住民の視点に基づく地域特性や課題を把握・情報の蓄積をおこなった。

#### イ 協議体の開催（全4回）

開催日：5月11日、9月14日、11月9日、3月14日

※対面型、オンラインの両方のハイブリット型で開催。

#### ② 講座等の開催

##### ア 「福島いきいきウォーク」

開催日：第1回〈福島地域〉①4月20日②5月18日

第2回〈玉川地域〉①10月19日②11月2日

内容：①まち探検、②まち探検の振り返り会を実施。

交流の機会の増加や地域を知る仕組みづくりとして歩いた地域のマップを参加者と作成した。

開催場所：まち体験 第1回福島地域 第2回玉川地域

振り返り会 あいあいセンター

- 参加人数：第1回①22人②13人 第2回①13人②8人
- イ スマホを使って簡単に！コンビニでお買い物教室
- 開催日：①1月12日 ②2月9日
- 内容：キャッシュレス決済やスマホ利用の注意点についての講座、デモ機によるレジでのスマホ体験等を実施。
- 開催場所：セブンイレブン 野田阪神駅前店2階
- 参加人数：①3人 ②3人
- ウ 「姿勢について知ろう！～たいかん（体感・体幹）しよう！～」
- 開催日：1月13日
- 内容：理学療法士による体操・ストレッチの体験や、身体の少し気になるところを気軽に相談できるお悩み相談を実施。
- 開催場所：きらめきセンター
- 参加人数：25人
- エ 「ぬり絵をはじめてみませんか」
- 開催日：1月16日、2月6日、3月5日
- 内容：ぬり絵、ぬり絵の掲示。掲示期間中にシールアンケートを実施。
- 開催場所：UR鷺洲第2団地 3号棟集会所
- 参加人数：11人
- オ 世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ講座
- 開催日：2月16日
- 内容：歌舞伎に関する講義、質疑応答
- 開催場所：あいあいセンター
- 参加人数：12人
- ③活動の場の発掘・開発
- こころあい大開の屋外スペースや、福島ともしび苑の活動スペースを活用し、青空コンサートや体操教室等の活動の場としての調整を行った。旧ダイルームのスペースを活用し体操を開催した。
- ④サービス実施情報の周知
- コミュニティサロン・子ども食堂の情報を掲載した福島区コミュニティサロンカレンダーを毎月発行。
- 「福島区シニアのための暮らしのお役立ち情報ガイド第9号」を



地域包括支援センターと共同で発行し、新たにAIオンデマンド交通の情報を掲載した。

⑤その他

区役所主体で11月30日に「もしバナゲーム」を活用した区民向けのACP講座にファシリテーターとして参加し、生活体制整備事業の周知を実施した。

地域包括ケアに基づくネットワークの構築(4事業連携)を目指し「福島区の在宅医療を考える会」に世話人として、生活支援コーディネーターが出席。アンケート結果から、生活支援体制整備事業の認知度はまだ高くはないため、引き続き地域住民や関係機関に対して、生活支援体制整備事業の周知をおこなっていく。

**(14) 地域の福祉活動サポート事業及び福島お助けネットワーク事業**

①地域の福祉活動サポート事業

平成28年度より、各地域のコミュニティセンターや福祉センターに相談窓口「みんなの相談室」を設け、地域事情に詳しい人材を「地域福祉コーディネーター」として配置。相談や情報提供、地域における要援護者の見守りネットワーク強化学業の推進等に取り組んだ。また、毎月1回事務連絡会を定例開催し、情報交換の他に研修を実施し、資質向上を図った。

ア 相談・安否確認・見守り把握・開室日数など

a 相談ならびに安否確認を含む件数…672件

訪問：40件 来館：464件

電話：165件 その他：メールFAXなど3件

b 見守り・状況把握

延べ人数4,295人

c 開室日数(延べ日数)…1,880日(※在宅勤務数含む)

平日1,833日・休日(土・日・祝)47日

イ 地域福祉コーディネーター事務連絡会 実施内容

	開催日	主な内容
1	4月14日	新任職員紹介、報告書の説明
2	5月12日	「特殊詐欺の被害防止について」の講演会

3	6月 9日	「虐待の気づきについて」の講演会
4	7月14日	情報交換会
5	8月 4日	区民まつりその他連絡事項について
6	9月 8日	「障がい者の理解について」の講演会
7	10月13日	区民まつり振返り
8	11月10日	「災害は突然に～知っておきたい大事なこと～」の講演会
9	12月 8日	きらめきセンター見学研修
10	1月12日	「介護保険のあれこれ」の講演会
11	2月 9日	地域の見守り活動情報共有
12	3月 8日	「新システム移行について」の研修会

ウ 周知、広報

「広報ふくしま」2月号に掲載

②福島お助けネットワーク事業

公的サービスの対象とならない軽微なニーズに対して、地域住民の中から、有償ボランティア（サポーター）を募り援助する本事業について、平成28年度より福島区社会福祉協議会が受託し運営を行った。令和3年11月より、利用料金を2ランク制に改定。

車いす介助、家具等の重いものの移動、認知症の対応、技術を要するもの等は30分600円。掃除、買い物代行、蛍光灯取替え、話し相手等は従来通り30分300円。

ア 利用者・サポーター登録数

利用登録者数			サポーター登録者数		
男性	女性	計	男性	女性	計
72人	228人	300人	17人	45人	62人

※令和5年3月末現在と比較して

・利用登録者数は、計73人増

（男性18人・女性55人）

・サポーター登録者数は、計37人減

（男性△11人・女性△26人）

イ マッチング数

合計450件（男性依頼者72件、女性依頼者378件）

ウ サポーター研修・交流会 実施内容

	開催日	主な内容
1	5月12日	「特殊詐欺の被害防止」について 講師：福島警察署生活安全課 北川巡査部長
2	6月24日	こころの病と向き合うときに大切なこと～お互いが 「知り添う」地域に～ 講師：精神保健福祉総合研究室 代表 田村雅幸氏
3	6月27日	サポーター新人研修
4	9月 8日	「障がい者の理解」 講師：福島区障がい基幹相談支援センター神山暁良氏
5	11月10日	災害は突然に～知っておきたい大事なこと～ 講師：福島区社協お助けネットワーク事務局田中亜古職員
6	12月16日	サポーター導入研修
7	1月12日	介護保険のあれこれ 講師：福島区包括支援センター松井尚美職員
8	2月 5日	サポーター新人研修
9	2月 6日	サポーター新人研修
10	2月 9日	サポーター新人研修
11	2月15日	サポーター新人研修
12	2月19日	サポーター新人研修
13	2月21日	サポーター新人研修
14	3月 1日	サポーター新人研修

(15) その他

① 社会福祉法人設立30周年記念 福島区社会福祉大会

開催日：令和5年11月29日(水)

開催場所：福島区民センター

参加人数：約350人

② 日赤会費(社資)事務への協力

③ 大阪府共同募金会事務への協力

実施期間：令和5年10月1日～令和6年3月31日

内容：助成金配分申請・内容の周知

#### ④大阪府生活福祉資金（申込窓口）への協力

新型コロナウイルス感染症により生活困窮による生活資金貸付業務が増加し職員を増員して対応した。

##### ア 緊急小口資金

電話対応 72件      面談回数 44回

申込み 9件（うち、受理 9件）

##### イ 福祉費

電話対応 20件      面談回数 25回

申込み 2件（うち、受理 2件）

##### ウ 総合支援資金

電話対応 18件      面談回数 18回

申込み 0件（うち、受理 0件）

##### エ 教育支援資金

電話対応 20件      面談回数 12回

申込み 4件（うち、受理 4件）

##### オ 臨時特例つなぎ資金

電話対応 1件      面談回数 0回

申込み 0件

##### カ 不動産担保型生活資金

電話対応 0件      面談回数 2回

申込み 0件

#### ④安全衛生委員会の開催

労働安全衛生法に基づき、職員の危険及び健康障害を防ぐための基本的な対策について、産業医や衛生管理者等による調査審議を行った。（全12回）

開催日：4月13日、5月24日、6月29日、7月13日、

8月31日、9月14日、10月12日、11月16日、

12月14日、1月25日、2月29日、3月14日

### ⑤ ストレスチェックの実施

労働安全衛生法に基づき、ストレスに関する質問票に職員が記入し、職員自身のストレスがどのような状態にあるのか調べる検査を実施。区社協採用職員が受検した。

### ⑥ その他

ア 大阪市社会福祉大会への参加

イ 福島区民まつりへの参加

## 3. 公益事業・介護保険事業・指定管理運営事業

### (1) 地域包括支援センター運営事業

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護予防対策や状態に応じた介護・医療のサービスが切れ目なく提供できることを目指し、地域高齢者の心身の健康維持・生活安定のために必要な援助や支援を包括的に提供する。また高齢者虐待の防止および対応や権利擁護に基づき個人の権利を主体的に行使できるように支援を行った。

#### ① 総合相談支援

様々な相談に的確に対応できるよう、福祉・保健・医療等関係機関と連携し、本人・家族・近隣住民・地域等からの相談に対応。また、下福島ブランچ・野田ブランチに総合相談窓口を委託し、各地域の相談に対応した。

相 談 機 関	延べ相談件数
地域包括支援センター	8, 741件 (前年度7, 497件)
総合相談窓口 (下福島・野田ブランチ)	2, 446件 (前年度3, 137件)

#### ② 権利擁護・高齢者虐待防止への取り組み

ア 総合相談で、権利擁護の支援が必要な高齢者に対して、保健福祉センターや関係機関と連携をとりながら、成年後見制度等の活用支援を行った。

a 成年後見制度に関する相談 延べ69件

- イ 虐待の疑いのある高齢者に対し関係機関と協力し対応を行った。  
高齢者虐待に関する相談 延べ413件
- ウ 虐待の緊急性・虐待の有無、状況確認、対応計画の策定、終結等の判断を行う「サービス利用調整会議」の参加 延べ23回
- エ 地域福祉コーディネーター対象の虐待講座を実施（6/9）

③予防給付に関するマネジメント

要支援1・2の要支援認定者や家族の希望、生活機能等の把握、課題の分析を行い、介護予防サービス計画を作成し地域での生活を支援した。

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
認定者数 (人)	705	416	570	575	460	505	299
備考	認定総数 3,530人 うち要支援1・2ケアプラン作成委託件数 月平均約665件						

※令和5年10月1日時点における介護保険システムからの抽出情報

④包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア 地域ケア会議

- a 医療・介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める地域ケア会議を開催した。（6回開催）
- b 要支援者等の生活行為の課題の解決、状態の改善に導き自立を促すQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上を目指して、「自立支援型ケアマネジメント検討会議」を開催した。（13回開催）

イ 総合相談窓口連絡会議

地域の相談窓口（ランチ）である下福島ランチ（阪神長楽苑）、野田ランチ（福島ともしび苑）、認知症初期集中支援チームと毎月1回連絡会を開催し、地域の相談状況や支援内容の検討、介護予防啓発等の情報交換を実施。（12回開催）

ウ 地域における居宅介護支援事業者の後方支援

- a 福島区内で業務を行う、ケアマネジャーの支援のため、相互の

情報交換、研修会等を開催。（9回開催）

b 処遇困難な事例等に関するケアマネジャーへの個別支援  
延べ1,672件

⑤ 関係機関のネットワークの形成

ア 区内、近隣区の事業者相互の情報交換・資質の向上と住民にとってよりよいサービスをめざし、各種連絡会を開催。

a 福島区ホームヘルパー連絡会（4回開催）

b 通所サービス連絡会（7回開催）

c 訪問看護事業所連絡会（6回開催）

d 介護ホーム連絡会（6回開催）

e 医療機関相談員連絡会（3回開催）

イ 医師会・歯科医師会・薬剤師会、介護事業者等と連携し「福島区在宅医療を考える会」を共催。

a 在宅医療を考える会 世話人会（2回開催）

b 在宅医療を考える会研修会（3回開催）

開催日	内 容	参加人数
5月11日	講演：「優しさを伝えるケア技術ユマニチュード」 講師：独立行政法人国立病院機構奈良医療センター ユマニチュード認定インストラクター 看護師 山西智美 氏	62名
9月15日	講習：救命医療講習会 オートAEDについての使い方や有用性、AED使い方実習	50名
3月13日	グループワーク：今、福島区で医療職、介護職が行っている意思決定支援について～ACPを考える～	47名

ウ 健康展

a 健康展実行委員会（2回）

b 健康展（10/21 参加者470名）

エ 関係機関の会議参画

a 在宅医療・介護連携支援コーディネーター連絡会（10回）

b 地域福祉コーディネーター連絡会（12回）

c 高齢者支援会議（生活支援体制整備事業協議体）（4回）

d キャラバン・メイト連絡会（6回）

e 自立支援協議会（4回）

f 社会福祉施設連絡会（2回）

⑥出張相談会・イベント等の実施

ア 介護保険やその他の相談に関して、各地域コミュニティセンターや福祉センターなどに出向き相談を受け付けた。

イ 複合した相談等にも対応できるよう、地域自立支援協議会等と連携し、区役所1階にて出張相談会を開催。（11回実施）

ウ 大阪厚生信用金庫大淀支店にて、年金支給日午前にはランチと連携し、介護なんでも相談会を開催。（5回実施）

エ イオン薬局と共催し、毎月15日イオン野田阪神店で、高齢者なんでも相談会を開催。（11回実施）

オ 認知症サポーター養成講座の参画。（8回）

カ 集合住宅の集会室等、身近な場所での出張相談会を全地域で実施した。（25回実施）

地域名	開催日
上福島	11/10(金) シャトー西梅田
福島	10/26(木) メガロコープ福島 11/9(木) 福島コミュニティセンター
玉川	9/20(水) ユニライフ福島 1/25(木) 玉川コミュニティセンター
野田	6/8(木) 野田コミュニティセンター 9/16(土) リバーガーデン福島
吉野	11/15(水) 吉野コミュニティセンター
新家	10/12(木) 大開厚生年金住宅
大開	6/27(火)、2/8(木) 大開団地 10/13(金)、1/22(月) 野田パークマンション
鷺洲	6/13(火)、2/19(月) 鷺洲第二団地 8/29(火) スカイハイツ 7/1(土) リバーガーデン福島



	6/29(木)、10/19(木)、2/19(月) リバーサイドさぎす 10/16(月) グリーンシティOSAKA
海老江東	10/18(水) グリーンシティOSAKA1・2号棟
海老江西	10/12(木)、3/14(木) 海老江西コミュニティセンター 10/28(土) オレンジ食堂

キ 地域の課題抽出のため地域活動者との情報交換会を実施  
(10/23福島コミュニティセンターで実施)

ク 認知症啓発イベント「オレンジ食堂」(10/28あいあいセンター  
で実施。参加者61名)

#### ⑦認知症強化型地域包括支援センターの運営

認知症初期集中支援チームを置く認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症高齢者を支援する区内ネットワークの充実を図り、大阪市が取り組む認知症にかかる地域包括ケアシステムの構築を推進し認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることをめざした。

ア 認知症初期集中支援チーム員会議への参画…12回

イ 実務者レベルの会議開催…2回

ウ 区地域包括支援センター運営協議会への参画…3回

## (2) 家族介護支援事業 家族介護者のつどい(かいご泣き笑い会)

日常介護している家族が、勉強会や施設見学・交流会を行うことにより、介護について一人で悩まないことを目的とした事業を実施。

開催日	内 容	参加人数
5月18日	アロママッサージ講座	15名
7月20日	高齢者ホームの選び方講座	12名
9月21日	講座「いつまでも元気で貯筋のすすめ」	13名
11月16日	ワークショップ講座 クリスマスリース作り	14名
1月18日	牛乳・乳製品セミナー	10名
3月21日	「いつでもどこでもお口ケア」	13名

### (3) 認知症初期集中支援事業

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続することができるよう、医師と医療・介護福祉の専門職で構成する認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに設置。早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

#### ① チーム員の活動

適切な医療や介護サービス等に結びついていない、認知症または認知症の疑いのある方及びその家族を訪問し、アセスメントや受診勧奨、家族支援等の初期支援を包括的集中的に行い、自立生活のサポートを行う。

#### ② 認知症地域支援推進員の活動

認知症の方を支援するネットワークの構築・推進のため、認知症カフェの運営推進、認知症サポーター養成講座への協力など、認知症になっても暮らしやすいまちづくりのための活動を様々な機関や団体と連携しながら行う。

(具体的な活動内容)

- ア 医師・包括相談員・チーム員・地域支援推進員で、支援ケースの方向性を検討するため、認知症初期集中支援チーム員会議開催… 12回
- イ 認知症初期集中支援チーム対応ケース（若年性認知症の相談含む）… 32件
- ウ 事業の推進・広報啓発活動実績（案内チラシの配布等）… 148か所（ほか全町会でチラシ班回覧実施）
- エ 関係者会議への参加… 2回
- オ 区地域包括支援センター運営協議会への参加… 2回
- カ 認知症カフェへの側面的支援… 44回
- キ 社会参加活動の支援… 70回
- ク その他

- a 認知症に関するパネル展（9/11～9/22福島区役所1階ロビー、10/21健康展、11/1～12/28福島図書館入口展示ブース、2/1区民講座）
- b 認知症啓発イベント「オレンジ食堂」（10/28あいあいセンター 参加者52名）
- c 健康展（10/21区民センター参加者470名うちiPadによる認知症チェックコーナー 参加者127名）
- d 区民講座（2/1区民センター「優しさを伝えるケア技術ユマニチュード」（福島区医師会・在宅医療を考える会共催 参加者110名）
- e 認知症サポーター養成講座の参画（9回、延べ135名）
- f 地域住民対象の認知症予防講座（6回、延べ94名）

#### （４）オレンジサポーター地域活動促進事業

認知症地域支援コーディネーターを配置し、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしつづけられるよう認知症の方を見守り、支援する体制の構築を目指すとともに、地域において認知症の方の支援や認知症に関する市民の正しい理解の促進を図った。

- ①事業等の広報・周知活動実績…79件
- ②地域の生活支援ニーズと認知症サポーターの把握
  - ア 地域の生活支援ニーズ把握実施数…9回
  - イ 認知症サポーターの把握人数…53人
- ③企業・団体への講座の受講や登録の推奨
  - ア オレンジパートナー企業・団体の登録…3件
  - イ オレンジパートナー社会貢献活動の周知 大阪市社会福祉協議会ホームページに掲載
- ④ちーむオレンジサポーターへの後方支援
  - ア ステップアップ研修受講者数…13人
  - イ ちーむオレンジサポーターの登録…5件

## (5) あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）

認知症や知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な方への日常生活自立支援事業について、地域での利用待機の解消および今後の利用希望追加のニーズにこたえるため、区社協において相談から契約、福祉サービス等利用援助および日常金銭管理・書類等預かりサービスの提供を行なった。なお、福祉サービス等利用援助、日常金銭管理サービス等の提供にあたっては、一体的に実施した。

①相談及び対応件数 2,785件（前年度2,444件）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他
1,565件	393件	820件	7件

②サービス利用者数（令和6年3月末現在） 38人（前年度32人）

③委任契約締結件数 10件（前年度18件）

④委任契約終了件数 4件（前年度7件）

## (6) 介護予防事業

①介護予防教室事業（あいあい教室）

月1回、コミュニティセンター、福祉センターで要支援・要介護状態をできる限り予防し自立した生活が送れるよう講座を開催。

実施地域	延べ参加人数		
	4～9月	10～3月	合計
上福島 地域	75	75	150
福島 地域	59	46	105
玉川 地域	106	109	215
野田 地域	95	80	175
吉野 地域	77	81	158
新家 地域	78	89	167
大開 地域	53	43	96
鷺洲 地域	80	92	172
海老江東 地域	58	67	125
海老江西 地域	57	51	108
合計	738人 (前年度676人)	733人 (前年度708人)	1,471人 (前年度1,384人)

②介護予防運動クラブ（区社協独自事業）

ア 介護予防運動クラブ「ベーシック」「スタンダード」

複合型介護予防教室事業の設備や講師のノウハウを活用し、区社協独自の介護予防運動事業を実施した。

実施日時：月・水・金曜日 1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方

定員：6人（抽選）

参加費：1クール12回 4,000円

【参加人数一覧（延べ人数）】 (人)

	月曜 コース	水曜 コース	金曜 コース	計
ベーシックコース	159	129	168	456
スタンダードコース	90	64	74	228
計	249	193	242	684 (前年度790)

※三密を防止するため、1クラス最大6名までの定員とした。

イ 介護予防運動クラブ「フリークラス」

介護予防運動の継続的な取り組みの重要性と参加者の継続実施の要望から、フリー教室(全3回)を実施した。

実施日時：火曜日 1クール12回・全3クール

対象者：区内在住の概ね65歳以上の方〔定員6人（先着順）〕

参加人数：延べ115名（前年度134名）

参加費：1クール12回 4,000円

※令和5年度よりフリー教室②・木曜コースなし。

③あいあい健康体操教室（区社協独自事業）

健康運動指導士による、椅子に座って行う簡単なストレッチ体操やトレーニングを通して、筋力の維持・向上を図る健康体操教室を実施した。

実施日時：金曜日

実施回数：38回

参加人数：延べ550人

参加費：3,000円（5回分）

④介護にならない体づくり ランラン体操（区社協独自事業）

介護予防運動指導員による体操教室（令和5年1月より）

実施日時：水曜日

実施回数：30回

参加人数：延べ人数137人

参加費：1回600円

（7）子ども・子育てプラザ事業

令和5年度は令和2年度から実施していた予約制や人数制限を解除し、多くの子育て世帯の参加につながった。また、さらなる周知のため、区内地域での回覧による「プラザだより」の周知を実施し、さまざまな地域からの参加につながった。また今年度は長年の課題であった「担い手の固定化」に対し、新たな担い手の養成をねらいとした「子育て支援ボランティア養成講座」を開催し、ファミリーサポートセンター事業の「提供会員」の増加にもつながった。

①子育て活動支援事業

ア 子育て情報の収集・管理・提供

a 講座等の情報を広報紙とホームページにより広く提供

- ・プラザだよりの発行（乳幼児と保護者対象）・・・12回  
（8月号～3月号まで地域の回覧での周知を実施）
- ・プラザだよりの発行（児童対象）・・・・・・・・・・4回
- ・ホームページの情報更新・・・随時

b 区保健福祉センターで実施される赤ちゃん広場等に出向き、  
情報提供

イ 地域の自主的な子育て活動への支援

a 地域の子育てサークルへの活動場所の提供、遊具等の貸し出し  
を実施

- ・おもちゃ病院への活動場所提供・・・・・・・・・・12回
- ・遊具の貸し出し・・・・・・・・・・・・・・・・・・随時

b 子育て支援ボランティア養成講座・ステップアップ講座の実施

内 容	開催回数	参加人数
子育て支援ボランティア養成講座 (ファミリーサポートセンター福島提供会員養成講座)	全 7 回	1 2 1 人 (延べ人数)

c 地域子育てサロンへの出前講座の開催

・ 出前講座の実施 . . . . . 1 6 回

ウ 子育て中の親子の支援

a 子育て中の親子が参加しやすいよう、様々な子育て支援講座を実施。

内 容	開催回数	参加人数	内こども(人)
ベビーマッサージ	1 2 回	1 5 1 人	7 6 人
ウキウキ身体測定	1 2 回	7 7 8 人	3 9 5 人
おはなしのじかん	1 2 回	5 8 1 人	3 1 8 人
親子ビクス	1 2 回	6 2 3 人	3 2 0 人
似顔絵を描いてもらおう	6 回	7 1 人	3 5 人
英語を楽しもう	3 回	3 1 7 人	1 1 6 人
マタニティヨガ	3 回	7 人	
プレママ・プレパパ講座	3 回	2 5 人	
離乳食講座	2 回	8 1 人	4 1 人
こいのぼりを作ろう	1 回	5 6 人	2 9 人
七夕かざりをつくろう	2 回	1 4 8 人	7 6 人
音楽コンサート	2 回	1 4 8 人	7 5 人
腸活でからだを守ろう	1 回	1 8 人	9 人
クリスマス会	1 回	1 4 6 人	7 5 人
歯のおはなし	1 回	4 0 人	2 1 人
パパのための読み聞かせ講座	1 回	1 5 人	7 人
親子リトミック	2 回	2 2 2 人	7 3 人
家族応援講座	1 回	3 5 人	1 8 人

絵本の読み聞かせ	1回	54人	28人
冬の過ごし方	1回	42人	21人
子どもの事故防止と応急手当	1回	38人	19人

エ 児童の健全育成

内 容	開催回数	参加人数
卓球の日	40回	139人
けん玉教室	4回	28人
プラバン工作	2回	12人
クリスマス会	1回	10人
新春お楽しみ会	1回	8人
進級お楽しみ会 ボッチャ体験会	1回	10人
こどもボランティア(4/22・夏休み期間・11/11)		12人
夏の思い出をかざろう	1回	4人
和紙染めうちわを作ろう	1回	3人
ボードゲームで遊ぼう	1回	3人
音楽コンサート	1回	1人
キッズクッキング	1回	12人
冬休み宿題をしよう会	1回	2人
エコバッグを作ろう(出張ひろば)	1回	12人
工作を楽しもう(出張ひろば)	1回	8人

オ 地域関連事業(アウトリーチ)

プラザ外でのイベントの開催や老人福祉センターとの世代間交流事業を開催した。

内 容	開催回数	参加人数
しゃぼん玉であそぼう(イオンそよら)	3回	165人
しゃぼん玉であそぼう(福島公園)	1回	47人
絵本の読み聞かせ&おもちゃ病院	2回	100人



(イオンそよら)		
うちわを作ろう(ウイステ)	1回	70人
バルーンでクリスマスリースを作ろう (ウイステ)	1回	53人
盆踊りを踊ろう(世代間交流事業)	1回	19人
節分工作と豆まき(世代間交流事業)	1回	170人

## ②ファミリー・サポート・センター事業

子育ての援助が必要な方「依頼会員」と、子育ての援助ができる方「提供会員」が会員として登録し、子育てを地域でささえあう「ファミリー・サポート・センター事業」を実施。

活動件数：1,423件（前年度839件）

令和6年3月31日現在の会員数

依頼会員	提供会員	両方会員
125人	43人	7人

## ③地域子育て支援拠点事業（つどいの広場事業）

ア 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

0歳～就学前の乳幼児とその保護者が、自由に交流できる場所を提供。

利用人数(延べ人数)：14,657人

(うち乳幼児7,534人)／年間

(前年度7,298人(うち乳幼児3,846人)／年間)

内 容	開催回数	参加人数	内乳幼児
手形のお誕生日カード	12回	171人	84人
お誕生日会	12回	285人	158人
ちっち☆ひまわり	2回	117人	60人

イ 子育て等に関する相談、援助の実施

ウ 地域の子育て支援関係機関・グループとの連携

エ ブックスタートの実施・・・12回 125人

④福島区において実施する独自事業

ア 子育て情報誌「フッピイキッズ」の編集委員会の開催。

編集委員会の開催	9月・1月
フッピイキッズの発行	9月・12月・3月

子育てに関する情報紙「おでかけカレンダー」を毎月発行

イ 子育て支援連絡会における事務局

福島区役所・区社協との事務局開催。区内の保育園等施設や

区内つどいの広場・子育てサロン等の運営者との情報交換

開催	内容	参加者
第1回（6月）	新型コロナウイルス感染症対策について	38名
第2回（1月）	男性の育児参加について	39名

**（8）老人福祉センター事業**

指定管理者の5年目として、つながり支えあう福祉コミュニティの創出、福祉のまちへとつなぐ架け橋としての役割を担うことを基本方針とした。また、「昭和レトロのアメニティーと手づくりのホスピタリティー」をモットーに事業運営をした。3年を超えるコロナ禍も5月8日付で新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い次の5本柱に注力し、高齢者のニーズに沿ったセンターの事業運営を行った。

当センターの福祉複合施設としての特色を生かしてコロナ禍以前のように世代間交流事業を再開した。また、合同事業として区社協、区役所と連携・協働し事業展開をした。

①「介護予防の拡充」②「生きがいと健康の追及」③「相談・情報提供事業の充実」④「老人クラブの活動支援」⑤「同好会支援による活性化」の5点を重点項目として取り組んだ。

**①「介護予防の拡充」**

3年を超えるコロナ禍は高齢者に想像以上のダメージを与えており、フレイル・プレフレイル化、認知症気味の方が増えている現状を認識しセ

ンターならではの機能の発揮をし、特に一般介護予防に注力して事業展開を図った。百歳体操以外に指導者資格を持つ先生による5種の体操・ストレッチの計6種類のメニューを年間通して提供した。また、当センターの看板の介護予防メニューの「数独」「大人のぬりえ」は好評であった。

一般介護予防を目的とする健康づくり事業として、健康づくり3講座を年間30回実施するとともに健康いきいき教室を年間10回開催した。また、気軽に参加できる健康づくりとして、百歳体操を毎週2回、年間96回実施し1,470人が参加された。それにより年々高まる高齢者の健康づくりに対する要望に応えた。また、年4回の運動指導士などによる指導、助言を行った。

#### ア 健康づくり講座

事業名	開催回数	参加人数	備考
座ってビクス	10回	165人	6～11月（計10回）
モビバン体操	10回	222人	6～11月（計10回）
健康体操	10回	177人	6～11月（計10回）
合計	30回	564人	

#### イ 健康・体力づくり行事

事業名	開催回数	参加人数	備考
健康いきいき教室	10回	266人	8月の夏季5回、 1、2月の冬季5回
いきいき百歳体操	96回	1,470人	毎週火曜、木曜
卓球広場	38回	651人	毎週月曜日 4回/月
ディスコン広場	34回	336人	毎週月曜日 4回/月
介護予防ダンス	24回	471人	2グループ×12回 月 計24回
合計	202回	3,194人	

## ②「生きがいづくりと健康の追及」

高齢者のいきがいづくり、健康づくり、社会参加などを支援するために各種講座やイベントを開催するとともに、同好会活動の立ち上げ・日程調整・広報等を支援した。

### ア 生きがい探究の機会の提供

「お誕生会」「七夕まつり発表会」「盆踊り大会」「きらめき文化祭」「淡路島施設見学」「中央卸売市場施設見学」等を実施しニーズにこたえた。感染予防・対策をしっかりと、「もの忘れ防止と体操」「脳の健康と体操」を実施する等、コロナ禍に即した企画を実施した。また、ステイホーム応援企画として「大人のぬりえ」を実施。「チャレンジ数独」と同じく脳トレと認知症予防を兼ねて実施した。

### 健康づくりと介護予防の促進講座

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
出前講座：区役所 「心の健康」 保健福祉課	ストレス、うつなどの予防や、アルコールとの上手な付き合い方や睡眠など、「こころの健康」についての講話。	11/1	10人	福島区老人福祉センター クラブ室
お口の中の健康 「口腔ケアの必要性」 中村歯科クリニック	オーラルフレイルのことや、口腔ケアの必要性について詳しく、分かりやすく講話。	11/29	11人	福島区老人福祉センター クラブ室
「認知症」～歯って得する健口講座～ 福島区社協(認知症・歯科衛生士)	認知症について考えるとともに、「お口の健康と認知症」得する講話。色々な、「相談窓口」も教えてもらった。	2/27	16人	福島区老人福祉センター 大広間

◆健康・体力づくり事業

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
気功～体内の気を巡らせる～ 大阪市生涯学習インストラクター	呼吸に合わせて体を伸ばしたり・ねじったり、ストレスでの頭痛や肩こり・関節が痛むなどの体の不具合を未然に防ぐことを会得する。動くことで交感神経や血流の循環を整えて、免疫力を高めることを学ぶ。	8/25 9/29	27人 22人	福島区老人福祉センター 大広間
ノルディックウォーキング体験教室 ez to up パートナ ルトレーニングジム	2本のポールを持って歩くことによって、腰や脊髄を回転させる上半身の運動が加わる。足や腰への負担を軽減しながら運動効果を高めるウォーキング方法の指導を頂いた。	10/16 10/23	20人 15人	福島区 下福島公園
姿勢について知ろう ～たいかん(体感・体幹)しよう 西大阪訪問介護ステーション	姿勢チェック、体操、ストレッチ、お悩み相談など。 区社協:生活支援体制整備2名、介護予防支援1名、医療介護連携相談支援室1名も参加し、色々な相談に対応した。	1/13	25人	福島区老人福祉センター 大広間

◆生きがい探求講座・教養講座

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
実用書道～熨斗の表書き～ 東京書道教育会	普段使いの文字、実用的な書を身につける。今回は、熨斗の表書き。	4/25	16人	福島区老人福祉センター クラブ室
ドコモ「スマホ教室:応用編」キャッシュレス決済をはじめ ドコモショップ福島店	キャッシュレス決済の方法を学ぶ。 自身のスマホを使用(ドコモのスマホを借りることも可能) テキストを見ながらの体験後、質問、相談もできるようにした。	5/18 5/19	16人 12人	福島区老人福祉センター クラブ室

<p>(株) 明治食育セミナー「上手に食べて元気に長生き」</p> <p>(株) 明治関西支社</p>	<p>低栄養のリスク、予防、ヨーグルトと乳酸菌の講話。健康寿命を延ばすための栄養の摂り方やヨーグルトの中の乳酸菌の働き等、分かりやすく講話いただいた。</p>	5/30	19人	福島区老人福祉センター クラブ室
<p>スマホアプリ活用講習会</p> <p>「オンデマンドバス」を予約しよう</p> <p>Osaka Metro</p>	<p>スマホで乗降場所を指定し、バスの迎いの予約方法などの操作を体験。</p>	6/1	16人	福島区老人福祉センター クラブ室
<p>スマホアプリ活用講習会</p> <p>アプリ、電話で簡単に呼べる「mobi」</p> <p>CmmunityMobility</p> <p>(株)</p>	<p>スマホで乗降場所を指定し、バスの迎いの予約方法などの操作を体験。</p>	6/15	10人	福島区老人福祉センター クラブ室
<p>ヤクルト健康セミナー「腸から整えるカラダとココロ」</p> <p>近畿中央ヤクルト販売 (株)</p>	<p>ヒトと腸内細菌は共生している。いつもでも健康で健やかにいるために腸内フローラはヒトの一生涯にわたるパートナーであることを学ぶ。</p>	6/30 AM・PM	33人	福島区老人福祉センター クラブ室
<p>漢字 DE 脳トレ</p> <p>知れば楽しい漢字の話</p> <p>大阪市生涯学習インストラクター</p>	<p>楽しく遊びながら漢字の魅力を再発見。漢字に関する様々な知識を分かりやすく解説。</p>	7/19	30人	福島区老人福祉センター クラブ室
<p>食育講座「プラス乳酸菌セミナー」</p> <p>雪印メグミルク</p> <p>(株)</p>	<p>カルシウムを多く含む、牛乳、ヨーグルト、チーズを使ったメニューを紹介。</p> <p>「おいしさの発見」のきっかけづくりをする。</p>	7/21	25人	福島区老人福祉センター クラブ室

ソフトバンク「スマホ活用講座」LINE操作・スマホ決済 ソフトバンク（株）	LINEのスタンプや写真の送信・友だち追加・グループ作成とグループトーク体験など。スマホ決済の概要・PayPay体験。その他QRコードの読み取りや使い方を学ぶ。	8/29 AM・PM	21人	福島区老人福祉センター クラブ室
ソフトバンク「スマホで防災に備えよう」 ソフトバンク（株）	身近に起こりうる災害について、防災情報を知る方法を学ぶ。 防災速報・天気予報(雨雲レーダー)・災害伝言ダイヤル、LINEを防災に活用、音声アシスタントなどを学んだ。	8/31 AM・PM	17人	福島区老人福祉センター クラブ室
おとなのための朗読講座 音読による脳トレ 大阪市生涯学習インストラクター	脳の働きは、使わないで次第に衰えてくるのが分かっている。脳も適度な刺激を与えることで働きをよくする。お勧めなのが音読である。	9/1 9/15	15人 13人	福島区老人福祉センター クラブ室
ハーブの香りを楽しもう 香りの小物づくり 大阪市生涯学習インストラクター	香りの話と、クローゼットや靴箱などいろいろな場面で香りを楽しむことが出来る香り袋を作成する。	10/18	10人	福島区老人福祉センター クラブ室
漢字DE脳トレ2 知れば楽しい漢字の話 大阪市生涯学習インストラクター	楽しく遊びながら漢字の魅力を再発見。漢字に関する様々な知識を分かりやすく解説。	10/31	21人	福島区老人福祉センター クラブ室
ドコモ「スマホ教室」初めてのスマホ体験教室 ドコモショップ福島店	初めての方を対象に、スマホの基本操作を体験する。自分のスマホ(アンドロイド、アイホンどちらでも)で学ぶ。テキストを見ながらの体験後、質問、相談ができるようにした。	12/6 12/7	15人 13人	福島区老人福祉センター クラブ室

苔玉作り体験教室 心和む苔玉のある暮らし 大阪市生涯学習インストラクター	初心者でも簡単にできる、癒し効果のある苔玉を作って楽しむ。 人気があり、申込多数となるので午前、午後の2回に分けて対応。	12/11 AM・PM	19人	福島区老人福祉センター クラブ室
--	---	----------------	-----	---------------------

#### ◆生きがいつくり事業

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
風鈴まつり	酷暑の中、夏の風物詩で少しでも涼しさを感じて頂いた。寄付された風鈴、手づくりのモビールなどで館内を彩った。	7/1～ 9/末	多数 (詳細不明)	福島区老人福祉センター ロビー
七夕まつり	6/27より窓口前設置の笹に願いを込めて短冊や七夕飾りを吊った。 7/5は大広間にて同好会による発表会を開催(笹は舞台横に移動)	6/27～ 7/7	80人	福島区老人福祉センター 大広間、ロビー
施設見学 大阪市中央卸売市場	大阪の台所である大阪市中央卸売市場が果たす役割と食品が家庭に供給されるまでの経路を体験する。	11/24	27人	JR環状線野田駅集合 大阪市中央卸売市場見学

#### ◆地域間交流・世代間交流事業

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
節分工作と豆まき	プラザ利用の乳幼児と保護者、センター利用者との世代間交流を図る季節行事。	1/26	8人	福島区子ども子育てプラザ 4階軽運動室

#### ◆啓発活動・啓発講座

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
「成年後見制度を知ろう」	「法定後見制度」と「任意後見制度」			福島区老人福祉センター



どのように利用 するの コスモス成年後 見サポートセン ター	の違いや利用方法など、判 断能力が十分となった人を 法的に保護する制度「成年 後見制度」の内容が分かる セミナーである。	6/16	22人	クラブ室
消費者トラブル に合わないため に 未然にトラブル 防止	よくある消費者トラブルに ついて注意が必要な手口や 未然に防止する方法を分か りやすく解説した。	10/4	7人	福島区老人福 祉センター クラブ室

◆その他

事業名	事業内容	実施日	参加人数	実施場所
第10回きらめ きミーテング 「深津区長と話 そう!」	福島区長とのセンター利用 者との車座集会。 事前に質問、意見を募集し 区長より回答。また、当日 の意見も受け付けて回答。 最後に記念撮影をした。	3/5	18人	福島区老人福 祉センター 大広間

※風鈴まつりの人数は除く

イ 同好会・サークル活動支援

同好会の立上げから、同好会間の日程等の調整、会員募集の広報を  
実施し、同好会の公平で健康な活動を支援した。令和6年3月現在  
24の同好会が登録。3年を超えるコロナ禍により活動を休止してい  
た同好会も4月にはすべて活動再開した。

事業名	開催 回数	参加人数	備考
初級囲碁教室	45回	244人	毎週月曜日午前
ネット囲碁	44回	164人	毎週水曜日午後
ダーツ	43回	298人	毎週水曜日午後
折り紙	24回	345人	第2水・第3土曜日
絵画	23回	210人	第2・4木曜日

俳句清和会	1 1 回	6 7 人	第 2 土曜日午後
詩吟	2 1 回	2 1 6 人	第 2 ・ 3 土曜日
卓球 1 卓球 2	2 3 回	8 4 2 人	第 1 ～ 4 火曜日 第 1 ～ 4 金曜日 第 1 土曜日
カラオケ 2	2 4 回	2 5 5 人	第 2 ・ 4 水曜日
民踊	4 2 回	3 2 4 人	第 1 ～ 4 月曜日 第 1 ・ 3 木曜日
ティーセレモニー	1 1 回	3 9 人	第 3 木曜日
生花(嵯峨御流)	8 回	3 1 人	第 4 水曜日(8月休み)
書道細字	1 3 回	2 3 5 人	第 4 月曜日
書道	1 3 回	1 1 3 人	第 2 月曜日
大正琴	2 2 回	1 7 9 人	第 1 ・ 3 月曜日
シニア元気クラブ	2 7 回	5 6 8 人	第 1 ・ 3 金曜日
フラダンス・プア	4 1 回	2 1 8 人	第 1 ・ 3 木曜日
ゲーム 1 ゲーム 2	6 8 回	8 4 9 人	第 1 ～ 4 木曜日 第 2 ・ 4 金曜日
笑いヨガ(幸福島クラブ)	1 0 回	2 1 8 人	第 3 水曜日
シニアフィットネス	1 3 回	2 4 1 人	月数回水曜日 不定期
リズムセラピー	2 0 回	4 0 8 人	第 2 ・ 4 木曜日
実用書道	1 1 回	1 1 7 人	第 4 火曜日
合 計	5 5 7 回	6 , 1 8 1 人	

※囲碁・将棋は、毎日月～土曜日の午後より開催。自由参加となっている。年間で延べ約 6 , 0 0 0 人が利用した。

### ③「相談・情報提供事業の充実」

#### ア 身近な相談体制づくり

高齢者の身近な相談窓口として、「あいあいセンター」をはじめ、関係機関につなげる機能の充実に努めた。利用者との情報交換のなかで、相談事項の拾い上げを行い、高齢者に係る問題をテーマにした講座を開催した。

#### イ 公的情報ならびに健康及び生活関連の情報提供

福島区役所、警察署、消防署の公的機関の情報を高齢者に適時、適確に伝えることを目的に当該年度も引き続き、防犯・交通安全、防災・防火等の啓発を図る情報提供を行った。また、感染症関連情報もタイムリーに提供した。3月恒例の区長と高齢者の対話集会「きらめきミーティング」は、第10回を開催し大盛況であった。

### ④「老人クラブ活動の支援」

単位老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の業務及び同会が実施する行事を支援した。令和5年度は前年に引き続き定例の教養講座交流発表会、カラオケ大会を支援予定もコロナ禍明けで開催されなかった。「歩こう会」できらめきセンター日より、チャレンジ数独・大人のぬりえのサンプル等を配布し情報提供した。

### ⑤「同好会支援による活性化」

昨年までコロナ禍で中止していた同好会の代表者を一同に介した「利用代表者会」の再開をした。利用者が自主、自立的にセンター運営に関われるように努めた。

コロナ禍における対応については同好会と意見交換を行い、同意と理解のうえ対応を図った。

### ⑥世代間交流事業

5月8日よりコロナ感染症が5類に移行になった。6月のお誕生日会よりすべての世代間交流事業を再開した。

事業名	開催回数	参加人数	備考
お誕生日会 (海老江保育所)	4回	272人	3月のお誕生日会は玉川・福島コミュニティセンターをZOOMで繋いだ。
盆踊り大会(海老江保育所、子ども・子育てプラザ)	1回	57人	センター 大広間
きらめき文化祭 (海老江保育所)	1回 (4日間)	349人	センター 各室・大広間
節分お面づくりと豆まき (子ども・子育てプラザ)	1回	8人	子ども・子育てプラザ
合計	7回	686人	

⑦その他

ア 囲碁将棋大会(同好会主催定例会)

囲碁:12月より再開 将棋:休止(コロナ禍で人数減)

イ 春・秋カラオケ発表会(カラオケ同好会主催)休止(コロナ禍明けで調整できず)

[実績報告]

①サービス向上策

施設運営委員会を通じて地域の意見・要望を広く求めるとともに、同好会等の「利用代表者会」を適宜開催し、利用者の意見をセンター運営に反映させてサービス向上に努めた。

②利用促進策

センター行事等の情報を提供する「センターだより」の内容の充実に努めたのをはじめ、市・区社協のホームページ及び区の「広報ふ

くしま」、区社協の「あいあいだより」を活用した広報活動の充実を図った。また利用者個々のニーズ把握に努め、行事等の立案・運営に反映する事により、利用率向上に努めた。

③利用者の満足度の把握について

「利用代表者会」を通じて意見を直接収集するとともに、アンケートの適宜実施によってニーズの把握に努めた。

④平等利用の確保について

「施設運営委員会」を開催し、意見・助言を聴取して平等・公正な運営に努めた。

⑤他施設との連携、地域との連携、市民・NPOとの協働等

併設の海老江保育所、子ども・子育てプラザをはじめ、福島区食生活改善推進員協議会、福島区健康推進協議会と連携した恒例のお誕生日会を4年ぶりに再開した。その中で高齢者施設運営協議会との情報共有と連携に努めた。

⑥建物の維持管理の取組みについて

高圧受変電装置(キュービクル)の主要部分の更新工事を無事に終了した。また、日常の清掃時の点検を基本に定期的に館内巡視を実施し、引続き軽微なものについては職員が修繕を行った。

⑦危機管理について(事故防止等安全対策、火災時緊急時の対応)

当センターは、区役所との協定によって災害時に福祉避難所として供用するため、12月2日にはあいあいセンターと連携して大規模災害を想定した災害訓練に参加、福祉避難所開設の現地訓練を行った。

⑧個人情報の保護・情報公開について

「大阪市個人情報保護条例」、「大阪市情報公開条例」をはじめ、当協議会の「個人情報保護規定」により、情報の漏洩や利用証の管

理を的確に行い、引き続き個人の権利・利益の侵害防止に努めた。

⑨過去4ヵ年度の利用者数の推移 (人)

延べ人数	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者	12,145	13,982	19,581	20,874
月平均	1,012	1,165	1,632	1,740
一日平均	53.9	55.5	66.8	83.5

※令和3年度は、緊急事態宣言等による臨時休館の日数を引いて稼働日は250日で算出している。

⑩大阪市の利用者満足度調査の結果

令和5年度の大阪市の目標：85.2%

福島区の結果：93.7%